

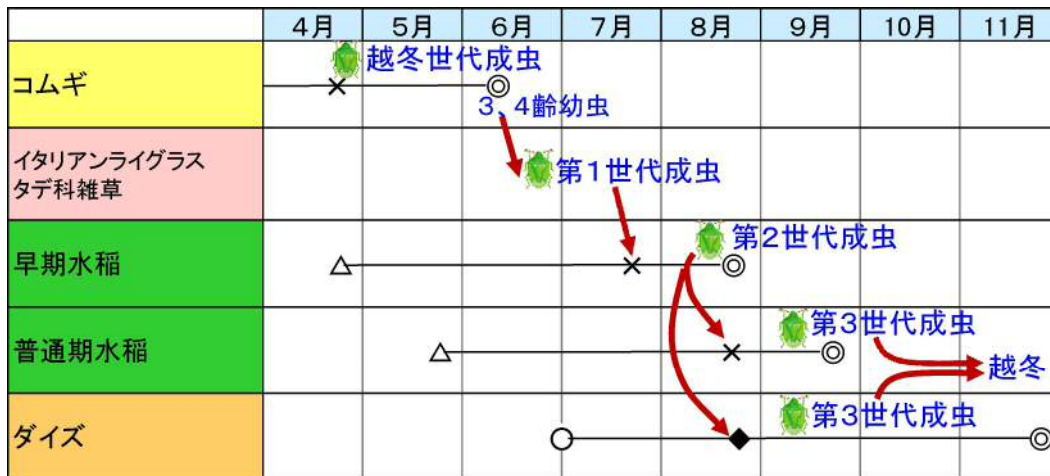
ミナミアオカメムシ情報第1号

平成28年5月31日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 ミナミアオカメムシの生活環

コムギ、水稲、大豆の輪作地帯では、ミナミアオカメムシの好適な餌が春から秋まで連続的にあるため、発生量が多くなる傾向があります。

越冬世代成虫は、5月中下旬にコムギに産卵し、ふ化した第1世代幼虫はコムギの穂を餌として収穫前までに3、4齢幼虫まで成長します。収穫後は、ほ場内のタデ科雑草や畦畔のイタリアンライグラスに移動し、それらの子実を餌として成育し、6月下旬頃、第1世代成虫が発生します。第1世代成虫は早期栽培水稲に飛来し、加害します（図1、2）。



注) ○: 播種期、△: 移植期、×: 出穂期、◆: 開花期、◎: 収穫期

図1 コムギ、水稲、大豆の輪作地帯におけるミナミアオカメムシの生活環

コムギ

雑草

早期栽培水稲



収穫

①コムギで幼虫発生
(5月下旬～)



明きよに生えたタデ科雑草



畦畔沿いのイタリアンライグラス

②コムギ収穫後、雑草に移動・成育 (6月中旬～)



③第1世代成虫発生
(6月下旬頃)



④早期栽培水稲に
飛来・加害
(7月中旬～)

図2 コムギ及びほ場周辺雑草におけるミナミアオカメムシの生活環

2 平成28年のミナミアオカメムシ第1世代幼虫の発生量予測

(1) 西三河地域（豊田市、安城市、西尾市）で5月中旬に実施したコムギにおけるすくい取り調査の結果、越冬世代成虫は、早期水稻への飛来量が多かった平成26年並の発生量でした（図3）。

(2) 名古屋地方気象台5月26日発表の気象予報によれば、向こう1か月の気温は高く、第1世代幼虫の成育に好適な条件が見込まれています。

以上のことから、本年の第1世代幼虫の発生量は例年と比べ多いと予測します。

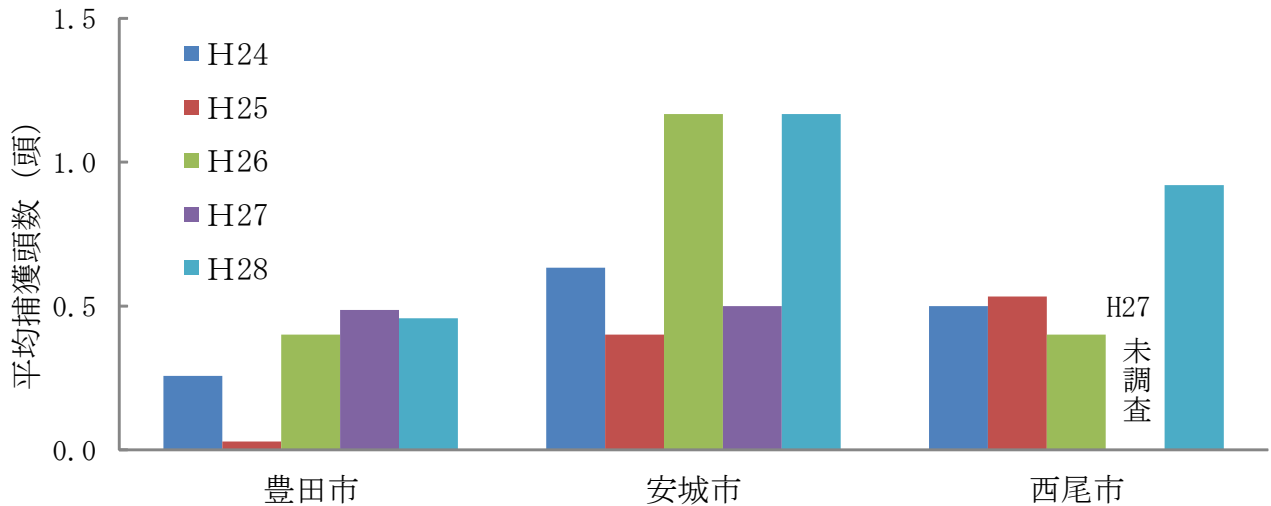


図3 西三河地域のコムギにおけるミナミアオカメムシ成虫の発生量（すくいとり調査20回振りあたりの平均捕獲頭数）

3 防除対策

コムギ収穫後の第1世代幼虫の餌を断つために、①収穫前に畦畔のイタリアンライグラスを除草する、②コムギ収穫後、明きよのタデ科雑草を残さない、③大豆作付のためには場を耕起するとき、明きよ内の雑草を残さないなどの除草対策を行いましょう（図4）。



①収穫前に畦畔除草を行う

②収穫後に明きよのタデ科雑草を残さない

③耕起する際に明きよ内の雑草を残さない

図4 コムギほ場における除草対策